

視察報告

1、ドイツ

① フランクフルト近郊の清掃施設の視察（11月8日 10:00～12:00）

- 廃棄物処理行政の概要
- 再生資源回収方法の概要と状況

今回の視察でドイツは世界的に環境先進国と呼ばれているので、非常に興味を持ち視察を楽しみに現地に足を踏み入れました。

視察した Zakb（ゼットエケビ）は 2005 年に 16 市町村で設立し現在は 22 市町村の一般廃棄物を処理する施設（ヘッペンハイム広域ゴミ処理場）となっております。

Zakb は家庭から排出した一般廃棄物のゴミを収集、運搬し処理する組織で、公社のような企業体だとの説明でした。この処理場では生ゴミ以外のリサイクルの為の家電集積、木材、剪定された樹木、プラスチック、紙ゴミ、布などが搬入され処理されておりました。

視察の間にも多くの市民が乗用車でいろいろなゴミを持ち込んでおりました。個人でこの集積場に持ち込む姿が日本とはシステムの違いか意識の違いか不思議な光景でした。

ここでは、木材や樹木の剪定くずでバイオマス（畑に入れる肥料）とバイオ燃料が生産されており、出来るだけ資源の再資源化やリサイクルの考えが徹底的に活かされております。

家電のリサイクル料はメーカーが負担しリサイクルを行い個人は無料。

搬入する品目によっては有料のゴミもあるとの事でした。



視察団一同



バイオ燃料



プラスチック



市民の搬入

② カールスルーエ市景観計画部訪問（11月9日 10:00～17:00）

- 都市景観構築の経緯と概要
- 緑のネットワーク作りによる自然の再生と地域の活性化

<午後より現地視察>

- カールスルーエ・ビオトープ視察・屋上緑化状況
- 飛行場後のビオトープ化や維持、管理状況

カールスルーエ市景観計画部の公園緑地専門家、ドクター（博士号）の称号を持つ「ハンス・フォルカー・ミュラー」氏のレクチャーから現地視察まで一日ご一緒いただきました。

景観計画部の行政担当は景観、環境、屋上緑化、下水道管理、樹木の管理、計画を所管している部署との事でした。

ドイツ南西部、黒い森地方の北に位置する市で300年前に森を切り開いて建設された計画都市で人口は約28万人の都市で、学術と産業都市でドイツでも屈指の研究機関がそろい、世界の大都市にも引けをとらない都市との紹介を宣伝用のCDが日本語で製作されておりこれには大変驚いた。日本人は120名が在住しているとの事でした。

ドイツの都市は緑を大切にする都市が多い中でもカールスルーエ市の緑地はとりわけ充実している、特に市が緑地政策のキーワードとしているのがビオトープの整備と緑地のネットワークとの事でした。

都市に住んでいても「自宅を出て緑豊かな歩道を歩き、大きな公園へ遊びに行く」この様な事が出来、都市気候改善にも有効であり風の通り道を確保し、「都市に住み便利な生活をしながら、同時に豊かな緑と自然に親しみたい」という考えが根底にあるとの説明もなされました。

一方、この様な政策にはコストも必要になります。そこで予算、財政ですが、景観計画部の職員は約300名で予算は新規投資金額が300万ユーロ（3億6千万円）管理費が3000万ユーロ（36億円）との説明でした。

管理している緑地は1,031haで公園面積は391ha、また、管理している樹木の管理本数は1万4625本、街路樹は7万1368本を管理しているそうです。

アメリカ軍から返還された飛行場全体をビオトープに変えた施策、取り組みには大変驚きました。



市庁舎前にて



緑の取り組み説明

午後より（現地視察）（13:00～17:00）

▽ 屋上緑化を視察（商工会議所のビル）

- ・ 腐葉土を約10cm入れ根が深くない植物で高く成長しない品種を植栽している。ほとんど手入れはしない。



屋上緑化



屋上緑化

▽ 団地内の公園・路面電車の軌道敷内の芝生化



団地開発隣接公園（地下は駐車場）



軌道敷内の芝生

▽ アメリカ軍から返還された空港をビオトープ



（敷地内へは立ち入り禁止）

▽ 緑のネットワークの森



緑のネットワーク



リサイクルビン回収箱



路面電車



市役所前の野菜屋さん